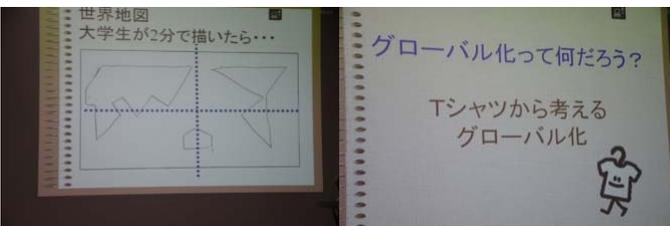


平成 28 年度第 6 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 28 年度第 6 回文系チャレンジ講座が、平成 28 年 10 月 26 日、「T シャツから考えるグローバル化」の関係を考える」をテーマに大分大学経済学部の柴田茂紀先生によって行われました。

遠隔配信された大分鶴崎・大分商業・安心院・日田・中津南・別府翔青・三重総合・国東・臼杵・大分西の 10 校(279 名)の高校 2 年生が受講しました。

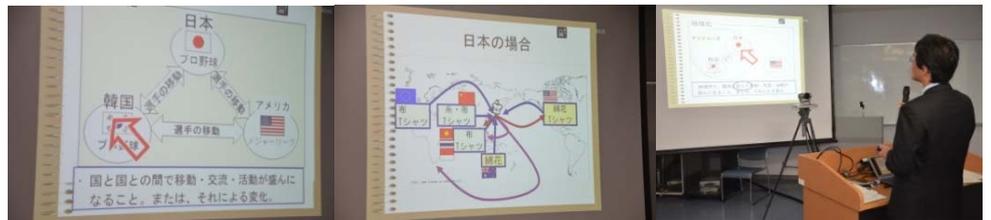
柴田先生は、事前に受講生へ「最近、さまざまところで“グローバル化”という言葉を見聞きします。では、グローバル化って何でしょう？それがこの講義のテーマです。一見、難しそうな言葉に見えるかもしれませんが、しかし、身近な例で考えるとイメージしやすくなります。今回は、T シャツという身近な商品を取り上げながら、グローバル化の事例を学びます。興味があれば、参考図書として、『あなたの T シャツはどこから来たのか？』（ピエトラ・リボリ著、雨宮・今井訳、東洋経済新報社、2007 年）を読んでおいて下さい。世界の意外なつながりに気づくでしょう。」と、メッセージを送りました。



講座では、先生の発問に対し生徒が答えを考え、多くの高校生に問いかけるという高校と大分大学の双方向の授業が展開されました。授業は、自分がイメージする世界地図を描くことから始まりました。実際に受講生が描く世界地図は、大陸の位置や大きさ、形状がちぐはぐであったり、日本が地図の中心に位置するものが多く、地球規模の視野に曖昧な点が見えました。国連旗（北極中心、正距方位図法）や欧米を中心とした世界地図では図の中心に大西洋が位置し、日本はユーラシア大陸の東端に位置しており、視点を変えるだけで大陸の位置関係が変わることが確認できました。グローバルに考えることは、世界地図の大陸や諸都市の位置関係が重要であることを理解させられました。

次にグローバル化について考えました。これは国家間を行き来する「国際化」や地域（州）内でやりとりする「地域化」よりも広い全地球規模でヒト・モノ・カネ・情報が往来することと説明がありました。

今回は T シャツを例に、考えて見ました。原料の綿花の生産・消費・輸出入の状況や中国、アメリカ、日本、インドネシア、ベトナムなどの経済活動のようす、そしてデザインをどこで作るのか、縫製工場の立地や人件費など生産地と市場の関係、経済格差、南北問題など、さまざまな理由で全世界を商品が回り製品化されることを知りました。中でも衣類の中国での依存度が低下していることもわかりました。古着の T シャツなどは発展途上国に送られ、別の市場の形成などがあることも知りました。今回の講座で、国境を越えて地球規模で経済が動いている現状を T シャツを例に理解することができました。



講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」（98%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（99%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」（98%）という高い評価でした。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」（98%）、「映像はよく見えた」（92%）という結果がでました。受講生の具体的な声として「グローバル化を身近に感じた」「製品の完成までの流れが地球規模で動いていることがわかった」「スライドが見やすく講座の内容がわかりやすかった」「経済学が理解できると、世界の動きが理解できると感じた」など多くの感想が寄せられました。

受講生の具体的な声として「グローバル化を身近に感じた」「製品の完成までの流れが地球規模で動いていることがわかった」「スライドが見やすく講座の内容がわかりやすかった」「経済学が理解できると、世界の動きが理解できると感じた」など多くの感想が寄せられました。

